

平成29年 第2回定例会

いっぱんしつもん

6月20日に、5名の議員から町行政に対する一般質問がありましたので、要旨をお知らせします。

住民の声を町行政に

温泉泉質実証事業の展開について問う



田中 一典 議員

田中議員 本町の温泉が非常に他町に対して自慢できるということを科学的にも証明され、立派な実証実験だと思っている。私は深川地区のたばこ組合のメンバーの一人で、その時にバレーボールJTチームの監督に本町出身者がなっている話をJT幹部から振り向けられた。かつて私は東京にいたが、どこの人との問いに北海道の妹背牛と答える時、「バレーの町」ということで、名刺がわりに本町が盛り上がった時代のことがずっと国民の中に根づいているというありがたいことを経験している。一番体が酸化しやす

い人間はスポーツ選手なので、妹背牛温泉の効用を使って、合宿の町として妹背牛町を例えば3年に1回でも2年に1回でも使ってもらうことなどは非常に大きな宣伝になるし、吉原監督に協力を願いながら、温泉の効能を展開していく大きな転換になるのではないかと私は一つのヒントと思いついて、方向も含めてこれからの展開について伺いたい。

企画振興課長 合宿誘致については、温泉利用をして地元住民とのコミュニケーションにおいて大変喜ばしいことだが、合宿となれば、本町には受け入れ対応施設がない。芦別市など合宿誘致をしている自治体のように競技場、宿泊施設等の受け入れ可能施設が完備されていれば大変よいのだが、現在の体制においては大変困難である。

田中議員 昭和27年に制定され、平成30年4月に廃止されるまで約65年間、稲、麦、大豆等にかかわる種苗生産、原種育成、選別、そのことを都道府県に義務づける形で行わ

主要農作物種子法の廃止について問う

れてきたが、29年4月の国会通過時で、農業競争力強化支援法案が同時に成立された。この2つの中で、農業競争力強化のために資材を安く提供するという話の中にもう一個、



▲妹背牛温泉ペペル（浴場内）



種子に関する知見を民間と共有しながら新しい展開に持つていくという内容が盛り込まれていた。農産業の中に工業製品のような種子の特許化をもたらして市場に利益をもたらす形にしていこうとしているのかという疑問を持つているが、町長の答弁を願う。

農政課長 国会においては都道府県の種子生産の予算確保や外資による種子独占の防止に努めることについて附帯決議として採択している。これにより、都道府県の種子生産の継続あるいは外資の独占、海外への生産技術の流出防止について歯止めの効果があると考えているが、現段階では、これ以上の判断が難しいことをご理解いただきたい。安全性については種苗法、カタルヘナ法により、奨励されないとするが、何よりも消費者が許さないと思っている。

町長 国民に安全、安心な食料の安定的な提供が一番重要であると考えている。農家経営にプラスになるのかを見きわめなければならぬが、マイナ

スであれば各関係機関と連携し、迅速に改善を求めて行動を起こしていきたい。

(他には水道法改正の閣議決定、地域おこし協力隊員のさ

赤字バス路線の補助等について問う



工藤 正博 議員

らなる増員、地元の酒米で地酒をにについての質問がありました。)

れぞれ幾らになると想定されるか。③自治体とバス会社は引き下げを理解し、継続するのか。その限界はいずれ来る。国や道に今から何を求めていくか。

工藤議員 国は、今年10月から来月9月までの補助率を40%に引き下げ、道内167路線が対象となり、このうち空知で約5分の1を占めることになるようである。生活路線、通学路線、病院に通う命の路線として、バス路線の維持はとても大切になっている。①赤字バスの補助上限の引き下げについて、国や道から打診があったのか。②妹背牛関連の2路線への補助金の額は幾らだったのか。補助上限を引き下げられると、補助金はそ

企画振興課長 ①今回の補助上限の引き下げについては直接的、間接的にも打診はなく、バス協会と道に対して事前の説明会が開催された。その後バスの減便や路線の統合、廃止につながるおそれがあることから、道、日本バス協会に對し、上限額維持を国に働きかけるよう要望し、今回の撤回になった。②平成28年度の空知中央バスへの補助金は、深川滝川線においては17万5千円、北竜線は59万7千円を補助している。補助上限を引

き下げられたとしても、現在の算定方法では負担額は変わらない。③国は、事業者に運行形態の見直しや路線合理化などを求めており、成果が見られない場合は再び補助減額

の話が浮上する可能性もあると言っている。自治体においては補助金を引き下げしない、住民の生活交通手段であるバス路線の確保を国、道へ訴えていかなければならない。

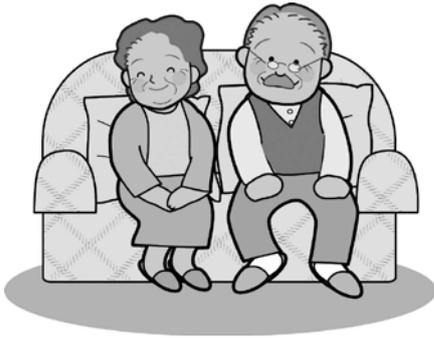


▲空知中央バス (路線バス)

高齢者の暖房費について問う

工藤議員 高齢者は、生活保護以下の生活をし、自分なりの尊厳を主張している人もたくさんいる。国は、私たちに早く死ねと言っているように思える。年金はこれ以上減らさないでほしい。「貯金も残り少なくなってきたし、どうしたらいいのか」と吐き捨てるように言われたことを思い出す。今日までこの国を、この妹背牛を築き上げてくれた恩人にこのような思いをさせていいのか。行政として今から高齢者に冬の暖房費の安定した支給の充実、拡充を準備し、取り組んでいくべきではないか。

健康福祉課長 安定した支給の充実と拡充については、価格に関係なく支給することにより、今年も支給されるのか、されないのかと不安な高齢者もいると聞いているので、セーフティネットとしての福祉灯油助成は価格に左右されずに恒常的な制度として実施されることが、高齢者等の生



活支援につながることも充分認識している。要綱上の価格に満たない場合は余り想定していないが、そういう状況になれば、高齢者等に不安を与えないよう対応したい。

(他には農業競争力強化支援法、町道未整備路線、介護保険改定案、高齢者の事故防止についての質問がありました。)

町施設について問う



石井 喜久男 議員

として書きかえ、移設したものであるが、移設、書きかえをして既に21年を経過する中で、現状と合っていないのは確かである。今後、予算措置、またデザイン等を検討し、変更に向け協議する。

健康福祉課長 ②平成13年度の学童保育開設に伴い設置された遊具であるが、平成21年度に学童保育が小学校へ移動してからのままの状態になっている。フェンスや遊具等も古くなっているので、事故防止のため撤去に伴う予算措置をし、早急に対応したい。

石井議員 ①妹背牛駅前には、妹背牛町案内図がある。近年妹背牛駅に町外の方々が多く訪れるようになり、案内図を見ている。しかし、案内図には現在存在しない施設、妹背牛高等学校、幼稚園等が表記され、うらら公園、パークゴルフ場、カールングホール等は記載されていない。妹背牛町のPRのためにも変更すべきと思うが、いかがか。②妹背牛町土地改良センター裏地には遊具があり、フェンスの柱も傾いている。使用されていないと思うが、今後の利用と遊具等をどうするのか伺う。

企画振興課長 ①現在設置の案内図は平成7年に駅前広場整備事業で駅舎前に設置していた案内図を当時最新の状況



▲妹背牛駅前の案内図

町職員の定住について問う

石井議員 町職員の町外移住、新規採用者の町外通勤について伺う。人口減少により町がなくなることから、地方創生の取り組みが行われ3年になるが、本町の人口減少には歯止めがかからない状態の中、特に地域に溶け込むべき町職員が町外に移住する、また、新規採用者が町外から通勤することがある。近郊の町では、新規採用者は私の聞いた中では全員その町に住んでいるが、本町ではどのようなことで町外からの通勤を認めているのか伺う。

総務課長 町外居住職員においては、結婚を機にそれぞれ配偶者の仕事や家庭事情で、町外転出を余儀なくされたものであり、特別なことがない限り今後も町内居住は望めないものと思われる。いずれにしても、公務員は奉仕者であり、災害などの緊急時には自己やプライベートよりも公務を優先しなければならぬと考えているし、人口減少に歯

止めがかかっている現状にあって、特別の事情がない限りは一人でも人口をふやすべく、町職員はやはり本町に住民票を置くべきである。

町長 地域の奉仕者である本町職員が町民の福祉のため、町内に居住することは当たり前

道道47号線の歩道改修について問う



佐田 恵治 議員

前であることとの自覚とその義務についての意識をさらに高めるべく、粘り強く指導をしていきたい。

(他にはペール温泉についての質問がありました。)



町としても強くこの改修についての要請が大事ではないか。この点での考えを伺いたい。

佐田議員 道道47号線の歩道の改修についてだが、JR函館線の跨線橋から深川までの間に、凹凸があり大変危険との町民の声がある。深川の高校や、また自転車で深川に買い物に行く方々から、非常に凹凸があり、危険で車道に出ざるを得ないと話があった。管轄は、空知総合振興局の札幌建設管理部深川出張所だが、

建設課長 平成の初めのころより道道深川雨竜線、町道3

号線から道道増毛稲田線の交差点であるが、片側2車線化を要望している。また、平成22年からは歩道整備もあわせて要望しているが、交通量や費用対効果の面で事業採択が難しいとの北海道札幌建設管理部からの回答となっているが現状である。しかし、今後も各種機会を捉えて北海道に要望していきたい。

高齢者の移動支援について問う



▲道道47号線

佐田議員 高齢者の移動支援についてだが、免許証返納は、これから多くなることから、町の支援を改めて強く求めていきたいと思う。町としてお買い物おもてなし事業ということで、モスピーカード加盟店で利用した場合の助成がある。利用率も年々ふえているというところで、大変評価できるものである。秩父別町では、

対象拡大、最大9割助成、外出を促し、認知症防止、免許証自主返納をしやすい環境づくりに取り組んでいる。高齢者の移動の足を確保、この選択肢をふやすことで買い物難民化を防ぎ、家に閉じこもりがちなお年寄りの外出を促すことで認知症予防や将来の介護、医療費抑制も視野に置いて、60歳以上で、免許のある、

寺崎町政について問う

ないにかかわらず、年48枚の助成券を発行しているが、我が町でもお買い物おもてなし事業の拡大、拡充について、考えを伺いたい。

健康福祉課長 高齢者が生活

していく上で、買い物や通院等の移動は今後ますます需要がふえ、大きな課題であると認識している。本町では平成26年度より商工会で行っている買い物おもてなし事業のタクシー助成の利用もふえてきている。商工会とも連携し、利用状況を確認して高齢者の生活支援、交通事故防止に努めていかなければならないと考えている。そのほか買い物支援や受診等の外出支援介助についても、現在社会福祉協議会で展開している生活支援サポーター事業とも連携した中で、高齢者が地域で安心して生活できるように支援している。

(他には憲法に基づいて町民の暮らしを守る、ペール温泉についての質問がありました。)



広田 毅 議員

広田議員 財政の健全化を

図りながら魅力のあるまちづくりを進めることは簡単なことではないが、このことは誰が町長になっても避けて通れないことは必定である。町長の任期を6カ月余り残した現段階ではあるが、寺崎町政における核と検証について次のことを伺う。①平成29年度町政執行方針で「人輝き、笑顔あふれるまち・もせうし」、みんな支え合う福祉と協働のまちづくりを目指し、町民とともに諸施策を実現すると述べている。町民とともに諸施策を実現するためには、何が一番必要だと考えているか。②2期8年、寺崎町政におけるまちづくりの核とは一体何か。「人輝き、笑顔あふれるまち・もせうし」のフレーズ

が町民に本当に浸透していると考えているのか。また、このことが現時点で実現できたと考えているのか、それとも道半ばとの考えなのか。2期8年の総括とともに伺いたい。

町長 ①将来の社会の仕組み

を維持するためには、人口が減ると困る、何とか食い止めようではなく、人口減少の中で皆が幸せになる、町民が幸せになる持続可能な仕組みに変えていくことが必要と考えている。何を、何をやるのか適切に判断する必要がある、こうした方向性をしっかりと地域住民、町民への提起する勇気と町民の合意形成をつくり出すことが求められると考えている。徹底して町民と向き合い、地域の人たちがみずからの頭で考え、創意工夫し、みずからの責任で決定し、実行する。これからの時代は、国からではなく町民から出発していきたい。②資金、補助金もないということ、カントリーの増強工事が

できなかったことが一番悔いに残っていると述べている。町民が幸せになるために、協働で何ができるかを考えるまちづくりを進めていきたいと考えているし、「人輝き、笑顔あふれるまち・もせうし」、

みんな支える福祉のまちづくりはまだ道半ばと考え、この状況を解決すべく町民が主権者の理念のもと、さらに鋭意努力し、人口減少に負けないうまちづくりを進めていきたいと考えている。



▲役場庁舎（正面）

平成29年 第2回定例会 主な議案審議から

平成29年第2回定例会では、町長の行政報告、教育長の教育行政報告を行い、委員会報告1件、報告1件、承認1件、人事案件13件、議案6件、意見書1件が審議され、6月20日（1日間）で閉会しました。

委員会報告

○●請願●○

▽安全・安心の医療・介護の実現と夜勤交代制労働の改善を求める意見書の採択をもとめる請願（賛成者少数）

▽介護保険制度の見直しを求める意見書の採択をもとめる請願（賛成者少数）

平成29年第1回定例会において総務厚生常任委員会に付託された請願2件は、委員会報告に対し、原案に賛成の立場から反対討論を行い、審議の結果、不採択と決定しました。

報告

▽平成28年度妹背牛町一般会計繰越明許費繰越計算書

この計算書は、国の補正予算にかかると事業で、年度内に執行できなかった事業を翌年度に繰り越すものであり、その内容を次のとおり報告する。

○通知カード・個人番号カード関連事務事業
29万2千円

専決処分の承認

▽平成28年度一般会計補正予算（第10号）

補正の主なものは、
○地方交付税
2, 829万7千円追加

○国営土地改良事業費償還基金積立金
7, 000万円追加

等で、歳入歳出それぞれ2, 569万8千円を追加し、承認されました。

人事案件

▽妹背牛町農業委員会委員の任命（12件）

妹背牛町農業委員会委員に次の12名が任命されました。

- 板垣 耕徳 氏（4区）
- 瀧本 賢毅 氏（9区）
- 市川 智 氏（5区）
- 寺岡 利雄 氏（2区）
- 栗原 正博 氏（10区）
- 土田 利夫 氏（11区）

- 堀田 雄一 氏（8区）
- 大井 富巳夫氏（6区）
- 山崎 雅浩 氏（7区）
- 長谷川博之 氏（3区）
- 中谷 雄二 氏（8区）
- 浅井 富幸 氏（1区）

▽人権擁護委員の推薦につき意見を求めること

人権擁護委員に、小野史博氏（1区5）が推薦され、適任と答申されました。

その他

▽過疎地域自立促進市町村計画（平成28年度～平成32年度）の一部変更

経営体育成基盤整備事業（千秋第2期地区農地整備事業）、農業先端技術普及事業（RTK—GPS方式自動操舵システム等の購入経費助成事業）、外国語指導助手業務事業（ALT）の3つの事業は、いずれも当初計画に記載していない事業で、本過疎計画策定後に事業実施が決定したため、新たに追加するものであり、原案のとおり可決されました。

補正予算

▽平成29年度一般会計補正予算（第2号）

補正の主なものは、
○町道下5号線道路側溝整備工事
508万7千円追加

○町道東1丁目線中央分離体撤去等修繕工事
794万9千円追加

等で、歳入歳出それぞれ2, 429万4千円を追加しました。

▽平成29年度国民健康保険特別会計補正予算（第1号）

補正の主なものは、
○国保システム改修委託料
400万円追加

○一般被保険者療養給付費
4, 019万4千円減額
等で、歳入歳出それぞれ5, 121万6千円を減額しました。

▽平成29年度介護保険特別会計（保険事業勘定）補正予算（第2号）

○繰越金（歳入）
612万9千円追加

○償還金《歳出》

612万9千円追加

以上3件は、原案のとおり可決されました。

工事請負契約の締結

▽平成29年度簡易水道事業
水道施設改良工事

○契約の方法

指名競争入札

○契約の金額

8,316万円

○契約の相手方

北海道富士電機 株式会社

▽平成29年度農業集落排水
事業妹背牛地区処理施設電
気設備製作据付工事

○契約の方法

指名競争入札

○契約の金額

2億1,265万2千円

○契約の相手方

北海道富士電機 株式会社

以上2件は、原案のとおり可決されました。

意見書

▽地方財政の充実・強化を
求める意見書

原案のとおり可決され、各
関係機関に提出されました。

平成29年 第2回臨時会

第2回臨時会は、5月12日に招集され、承認1件、議
案5件が審議されました。

専決処分の承認

▽町税条例の一部を改正す
る条例

平成29年度国の税制改正に
伴い、関連の町税条例を改正
するもので、改正の主なもの
は、軽減にかかる特例規定や
法律改正に伴う所要の規定の
整備等の条例の一部を改正す
るもの。

工事請負契約の締結

▽平成29年度稲穂団地A1
棟建設工事

○契約の方法

指名競争入札

○契約の金額

1億324万8千円

○契約の相手方

角野・夏井坂

経常建設共同企業体

▽平成29年度稲穂団地A2
棟建設工事

○契約の方法

指名競争入札

○契約の金額

9,493万2千円

○契約の相手方

渡辺・石井

経常建設共同企業体

以上2件は、原案のとおり
可決されました。

補正予算

▽平成29年度一般会計補正
予算(第1号)

補正の主なもの、

○除雪ダンプ購入費

4,430万円減額

○町道川1線舗装修繕工事

4,264万円減額

等で、歳入歳出それぞれ
5,242万6千円減額しま
した。

▽平成29年度後期高齢者医
療特別会計補正予算(第1号)
補正の主なものは、
○保険料還付金
7万6千円追加

等で、歳入歳出それぞれ
8万7千円追加しました。

▽平成29年度介護保険特別
会計(保険事業勘定) 補正
予算(第1号)

今回の補正は、歳出予算の
補正の款項の区分を振り替え
るもので、総額は変更ありま
せん。

以上3件は、原案のとおり
可決されました。

議会は公開が原則です

- ・定例会は、3月・6月・9月・12月の年4回開かれます。
 - ・臨時会は必要のつど開かれます。
- どうぞお気軽に議会を傍聴しましょう。



管外視察研修(奈井江町)

北海道町村議会議長議員研

修会の翌日、奈井江町サービ
ス付高齢者向け住宅(町立国
保病院の3階を改修し、昨年
12月に開設)を視察してき
ました。(参加者 議員9名
事務局2名、計11名)

○施設名称

奈井江町サービス付高齢者
向け住宅 あんしん

○入居室

Aタイプ 4室(単身用)
Bタイプ 3室(単身用)
Cタイプ 9室(夫婦用又
は単身用)

計

○入居定員 25名

○病棟再編に至った経緯

将来の人口構造を見据えて、
適正な病床のあり方を検討し、
町外からの移住の受入と、シ
ニア世代がアクティブに活躍
できる拠点づくりが必要であ
ると考え、医療と介護の一体
的な提供による地域包括ケア
システムの充実を目指すため
に、生活の根幹である「住ま
い」を病院内に開設すること
とした。



▲奈井江町立国保病院

○入居費等の設定

公立病院内での整備であり、
町営住宅と同様に公的賃貸住
宅としての役割を持っている
ことから、低所得者にも配慮
した入居費等の設定とした。

○入居者の状況

10月1日～10月31日までの
第1次募集期間で、A・Bタ
イプ希望者23件、Cタイプ希
望者5件。町内からの入居者
11室、町外からの入居者5室
(平均年齢81歳、男性37%、
女性63%)

北海道・空知・北空知「議員研修会」

○北海道町村議会議長会議員
研修会(7月4日/札幌コン
ベンションセンター)

講義①「トランプ政権と日本
経済/地域経済への影響は？」

慶應義塾大学経済学部教授

金子 勝 氏

講義②「日本政治の昨日・今日・
明日」

日本放送協会開解説委員長

島田 敏男 氏

参加者 議員10名 事務局2名



○北空知議会議員研修会
(7月20日/妹背牛町民会館)

演題「求められる議会・議員
活動」

講師 北海道町村議会議長会

事務局長 村川 寛海 氏

参加者 議員10名 事務局2名



○空知町村議会議員研修会
(7月25日/沼田町まちなか
ほっとタウン)

演題

「危機管理のまちづくり」

講師

札幌大学地域共創学群

法・政治学系教授

浅野 一弘 氏

参加者 議員9名 事務局2名

総務課4名 計15名

